

次の現場は、宇宙です。



鹿島建設の技術はいま、月に手が届こうとしています。2016年から、鹿島とJAXA(宇宙航空研究開発機構)の共同研究が始まりました。課題は、月や火星での宇宙基地構築を目指して、無人の遠隔施工システムを実現すること。過酷な宇宙空間で建設をするために、機械だけが宇宙へ。地上からの遠隔操作と建設機械の自動制御によって、宇宙での建設を可能にするのです。今世紀半ばには、月に、さらには火星に基地が完成しているといった想像も、もはや絶望空事ではありません。すでにこの地上で実用化が始めた技術があるからです。それが、鹿島の次世代建設生産システム「ACSEL(クワッドアクセル)」。人間は、タブレット端末であらかじめ指示を出すだけ。あとは複数の

建設機械が、自動で働く。人間が行けない危険な現場での作業を可能にし、また、将来的な現場の深刻な人手不足を解決するために生まれた技術が、宇宙の可能性を切り拓こうとしています。すべての建設現場は、やがて自動化していく。その場所が宇宙だとどうしても決して不思議ではないのです。鹿島が見上げる夜空には、次の現場が浮かんでいます。



100年をつくる会社
鹿島